

川崎市に対し

「2022年度に向けた政策・制度要求と提言」を申し入れ！ 新型コロナ対策や子どもの貧困対策などを要請

連合神奈川と川崎地域連合は、2021年8月17日(火)14時20分より川崎市第3庁舎において、「2022年度に向けた政策・制度要求と提言」の申し入れを行いました。コロナ対策や自然災害対応、子どもの貧困対策など連合神奈川は24件、川崎地域連合62件の申し入れをおこないました。



要請書を手交する藤吉議長（左）と福田市長（右）

冒頭、吉坂会長は「川崎市は、コロナ禍で大変な中、様々な対応をいただいていることに敬意を表したい。2022年に向けた要請は『貧困と格差のない平和で安心して暮らせる社会の実現に向けた取り組み』や『働く者や生活者の立場から見たコロナ対策の要請』などになっている。このような状況下でも政策・制度を進めていくことは重要な活動であるのご理解いただきたい」と挨拶しました。



吉坂会長

つぎに藤吉議長は、「感染が収まらないコロナ禍の対応に敬意を表したい。川崎市が発展をして、より働きやすく住みやすい街になることを願う要請となっている。コロナ対応で大変だと思うがこれまで同様対応いただき、少しでも前進させたいと思っている」と挨拶しました。



藤吉議長

福田市長からは、「コロナの対応について、最近は全病院を対象とした会議を開催し、病床確保に取り組んでいるが、それを上回る患者数になっている。感染予防と経済は二律背反だが、労働会の皆さんと共有して共に考えていきたい」と挨拶されました。



福田市長